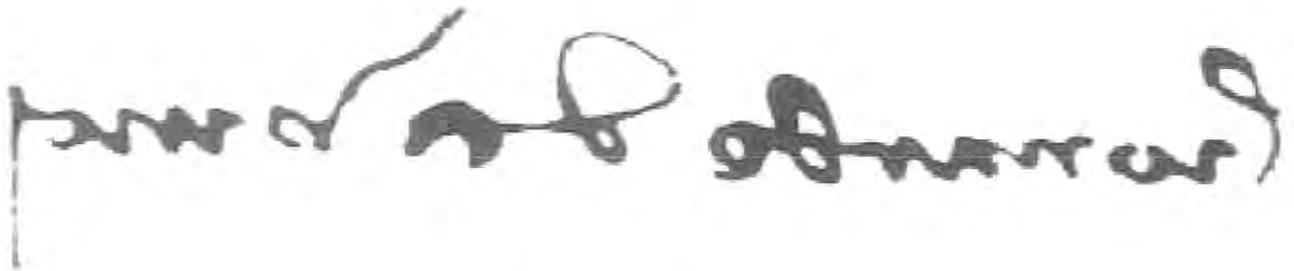


Kagami moji Nakane shiki Sokkiho Text

Da Vinci **ダ・ビンチ**



da Vinci Scrittura Speculare

左利きの人の中根式速記法教本

2014. 5. 10

(電子化の言葉)

この鏡文字版は、中根式稲垣派の体系をベースに関西学院大学速記部において指導されている中根式速記法である。関学速記部の谷口香奈江さんのご好意により、今回電子化を図った。

本書のタイトルは、da Vinci(ダ・ビンチ)とした。中世イタリアのレオナルド・ダ・ビンチは万能の天才であった。彼は左利きで、文字を左右、リバーズした鏡文字 *Scrittura Speculare* で書いていた。

ダ・ビンチが生きた時代は、古代ティロの速記が衰退していた中世であった。ダ・ビンチがもし速記法を改良したならどんな方式ができたであろう。

兼子次生

— 基本文字を書くに当たって —

1. 字は適度に大きく書く — できるだけ丁寧に
2. 字の尾部は必ず止める — 決してはねない
3. 濃線は一気に書く — 決してなぞらないように
4. 加點、切り線は後からつける — 単語を書き終えてから
5. 長線は思い切って長く書く — 長短の区別をつける
6. 濃線は心持ち力を入れるとうまく書ける
7. 字の角度にも注意する

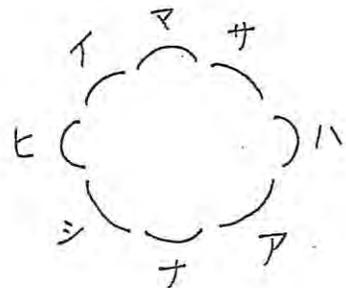
・ ア行、サ行は余りねかし過ぎないように、
— ナ行 マ行と間違っておそれがある

・ ヤ行 う行は余り立て過ぎないように
— ハ行と間違っておそれがある

8. 曲線はスムーズなカーブが出るように。
— 直線と区別する

円の一部を書くようなつもりで書く

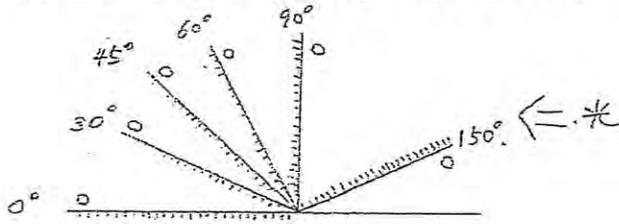
※ 上記 8つの事項を
基本文字が終わった段階で
もう一度見直し、自分の欠点
を知り、直しましょう



★ 中根式速記の語句説明

◇ 位置関係

1. 正側・負側 (直線)



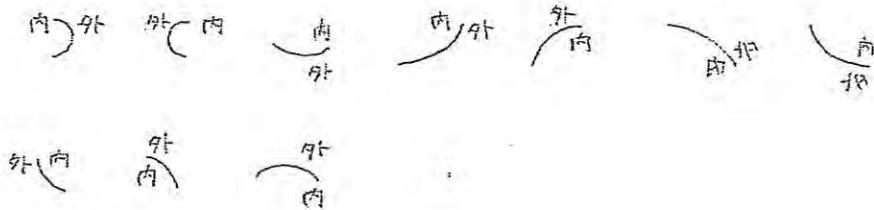
左側から光を当てたとき

→ 正側 ... 光が当たる側 (= 線符号の左側)

負側 ... 影になる側

0°のみ上側

2. 内側・外側 (曲線)

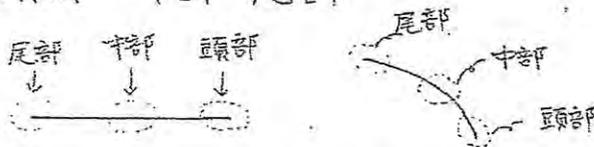


線を補い円にしたとき

→ 内側 ... 円の内側

外側 ... 円の外側

3. 頭部・中部・尾部

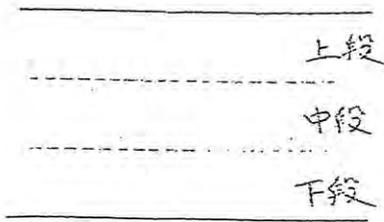


頭部 ... 文字の書き始め部分

中部 ... 文字の中間部分

尾部 ... 文字の書き終わり部分

4. 上段・中段・下段



紙の間に実際に線を引くわけではなく

大体の雰囲気ですらに分け、位置によって省略を行う

長さについて

1. 短線 … 基準となる長さ

長線 … [長さ] 短線の2倍の長さ

e段とo段 & u段の一部とワ

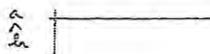
(ウ・ス・ツ・ヌ・ム・ル)

2. 最大線 … [長さ] 短線の3倍の長さ

3. 最小線 … [長さ] 短線の1/2倍の長さ

「かける」と「切る」

ex) “前の文字の尾部に”



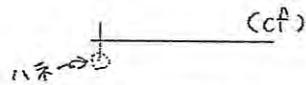
「かける」

後ろの文字の頭部が
少し出るように交差させる



「切る」

後ろの文字の中割まで
出るように交差させる



「切り捨てる」

基本文字 (五十音)

語尾はしっかり止めること!!

※0段 [長線]
... 0段の2倍の長さ
[短線]

※E段 [長線]
... E段の2倍の長さ
[短線]

※U段
[短線]
ク、フ、ユ
[長線]
ウ、ス、ツ、ヌ、ム、ル

※I段
[短線]
リ
[長線]
リ

※加点点
...ウ、ス、ヌ、ム、ルのみ

オ	エ	ウ	イ	ア	角度・書き順	
						ア行
						カ行
						ヤ行
						タ行
						ナ行
						ハ行
						マ行
						ヤ行
						ラ行

言葉を書いてみよう!!

[ルール] 1. 基本文字を連続させる

2. 基本文字が連続するときには切り線で区切る

3. 加点点・切り線は最後で書き終えてから打つ・切る

4. 加点点省略

加点点「コ」連続するとき → 前の加点点の方向に合わせて書面に加点点
「コ」 → 2文字目の加点点に「コ」

1年省略プリント NO, 2

※ 濁音 … 基本文字を濃く書いて表記

ただし、クは左側に加点

o	e	u	i	a	
ゴ	ケ	ク	キ	カ	が行
ソ	セ	*ス	シ	サ	サ行
フ	テ	ツ	*チ	ダ	ダ行
ホ	ベ	ブ	ビ	バ	バ行

*カ … 「チ」を濃くすると「ク」になるので、同音の「シ」を用いる (←シ)

*ス … 同音のため、加点の必要がない「ツ」を用いる (←ツ)

※ 半濁音 … 基本文字の左側に加点して表記

o	e	u	i	a	
(.)	\)	(.	バ行

資料 1 「撥音(ン)」

小円をつける側は | 直線 → 正側 |
 | 曲線 → 内側 |

o	e	u	i	a	
カ <small>ン</small> 略	エ <small>ン</small> 略	ウ <small>ン</small> 略	イ <small>ン</small> 略	ア <small>ン</small> 略	ア行
ク <small>ン</small> 略	ケ <small>ン</small> 略	ク <small>ン</small> 略	キ <small>ン</small> 略	カ <small>ン</small> 略	カ行
ク <small>ン</small> 略	セ <small>ン</small> 略	ス <small>ン</small> 略	シ <small>ン</small> 略	サ <small>ン</small> 略	サ行
略	略	ツ <small>ン</small> 略	略	チ <small>ン</small> 略	チ行
略	略	ヌ <small>ン</small> 略	略	ナ <small>ン</small> 略	ナ行
ホ <small>ン</small> 略	ヘ <small>ン</small> 略	フ <small>ン</small> 略	ヒ <small>ン</small> 略	ハ <small>ン</small> 略	ハ行
略	略	ム <small>ン</small> 略	略	マ <small>ン</small> 略	マ行
ヨ <small>ン</small> 略	略	略	略	ヤ <small>ン</small> 略	ヤ行
略	略	ル <small>ン</small> 略	略	ラ <small>ン</small> 略	ラ行
				略	ワ行

※ 松カ音 + 撥音「ン」の場合

$$\begin{cases} -ya + & -an \\ -yu + \text{「ん」} \rightarrow & -in \text{ と表記する} \\ -yo + & -en \end{cases}$$

(ex) キャン → カン ファン → ハン
 キュン → キン
 キョン → ケン

* 例外として

 ジュン, ジョン → ツン と表記
 ジュン, ジョン → ツン

cf. その他、〇〇ンの単語を表記する場合

1. イの場合 例
 キイン → キン
 ティン → チン
 フィン → ヒン

2. ウの場合 例 基本文字表記
 クウン → クン or クウン
 ドゥン → ツン or ドゥン

3. エの場合 例
 キエン → テン

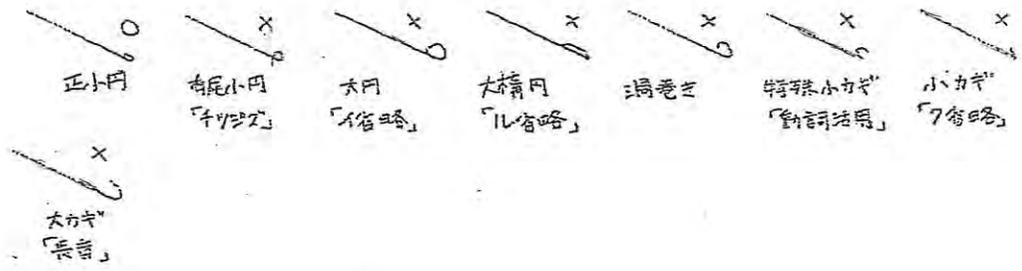
4. オの場合 例
 フォン → ホン

※ 撥音「ン」… 前の文字の頭部に正小円をつけて表記
(逆記法) (ex. 「カン」の場合 → 文字列は「ンカ」になる)

※ 円のつける位置は | 直線 → 正側 |
| 曲線 → 内側 |

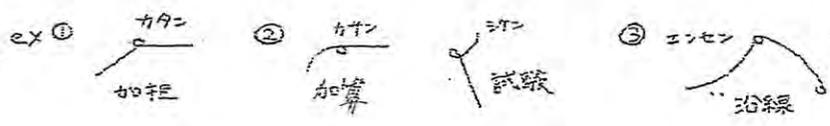
Ⅲ 第2音目に「ン」がくるとき

- ① 直線 + 「ン」 → 正側に小円をつける
- ② 曲線 + 「ン」 → 内側に小円をつける



Ⅳ 第3音目以降に「ン」がくるとき

- ① 直線 + 直線 → 角度の大きい側に小円をつける
ただし、同角度のときは正側に小円をつける
- ② 直線 + 曲線 → 曲線の内側に小円をつける
曲線 + 直線 (に合わせて)
- ③ 曲線 + 曲線 → 最初の曲線の内側に小円をつける
(に合わせて)

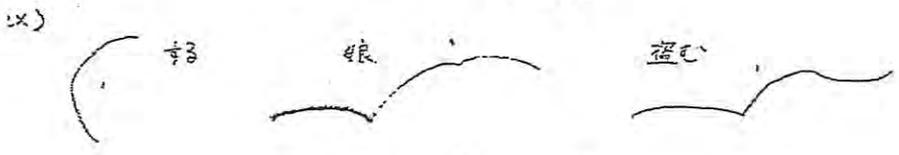


※ ショフ, ション → ツン と表記
 ショフ, ション → ツン

何 → 「ナン」と表記
 何 → 「ナン」と表記



から → 「カン」と表記 (たら → 「ア」と表記)



☆ 促音「っ」... 前の文字の尾部に浅く交差させて表記
 ただし、同角度の直線が連続するときは
 負側、尾部から表記

ex)



速記



さかた



せせと



徹底

中 繰り返し記号

... 2音以上の言葉が連続して出てくるとき、短くて濃い縦の直線を中部で接触させて、後ろの音を省略する
 ただし、前の文字が繰り返し記号と同角度のときは、
 前の文字に平行して表記

ex)



いろいろ



ながなが



毎日毎日



さらさらと

1年省田各プリント No.3

☆長音… 文字頭に大カギをつけて表記

(逆記法) (ex. 「オウ」の場合 → 文字列は「ウオ」になる)

☆ 大カギをつける位置は | 直線 → 正側 | (撥音「ン」と同じ方向)
| 曲線 → 内側 |

☆ 長拗音

-yaa → -aui² 表記

-yuu → -iui² 表記

-yuu → -eui² 表記

☆ アー, オオ

ア → -aui² 表記 (アア)

オ → -oui² 表記

※ 漏音, 半濁音も左記に準ずる

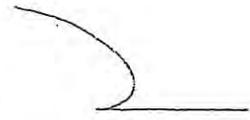
	ou	eu	uu	iu	au	
オウ オオ						ア行
コウ ゴオ						カ行
ソウ ソオ						サ行
トウ トオ						タ行
ノウ ノオ						ナ行
ホウ ホオ						ハ行
ミウ ミオ						マ行
ワウ ワオ						ヤ行
ロウ ロオ						ラ行

ex)

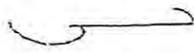

そいう


有効


共通


雇用


バツ-


コーナー


大阪

※特殊長音

○ユウ → ○ユウ で表記

○ヨウ → ○ヨウ


自由


使用、しよう


理由


費用

↑

↑

↑







② 連続法い) ... 前の文字から連続して書くことにより
省略する方法

「とゆう」 → 「と」を省略して「イウ」を連続させて表記

「のよう」 → 「の」を省略して「ヨウ」

ex)


そのようを


速記といふ

1年省略プリント No.4

★ 拗音 ... 文頭に大カギをつけて表記

★ 大カギをつける位置が特殊なので注意してください!!

※ a段
→ 長音・長拗音とも同形

※ u段・o段
→ 長拗音(-yu, -you)の形をもとにする

*1: 大カギを負傾斜につける

*2: 曲線を直線にする
(*2': *2 + 角度を90°にする)

*3: 内側に加線する

※ 濁音・半濁音も左記に準ずる

o u a

キ_o キ_u キ_a 力行
(ky-)

シ_o シ_u シ_a 廿行
(sy-)

チ_o チ_u チ_a 夕行
(ty-)

ニ_o ニ_u ニ_a 才行
(ny-)

ク_o ク_u ク_a 八行
(ky-)

ミ_o ミ_u ミ_a マ行
(my-)

リ_o リ_u リ_a ラ行
(ry-)

社会 ex)

諸国

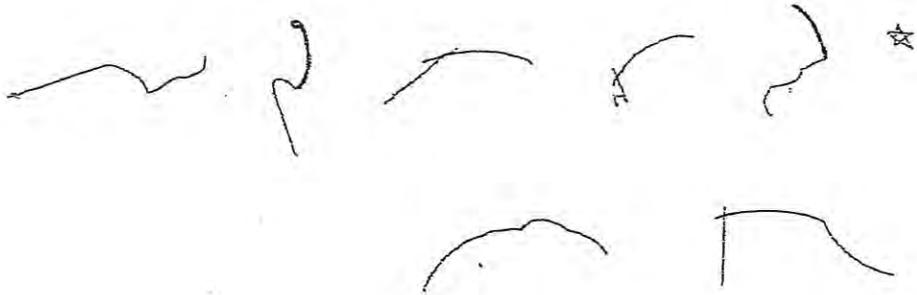
ピュア

旅行

中 文章を書いてみよう!!

- [ルール]
1. 書き始めがわかるように記号をつけましょう
 2. 助詞「は」「へ」「を」は基本文字「は」「え」「を」で表記
 3. 文節で区切る
 4. 書き終わりは一本線で締めくくる

ex)



[反訳] 私は速記をもっと勉強したいと思っています

- [アドバイス]
1. 文節で区切る (目安)
※ 助詞 (は、に、も、を、と、存、ば etc) では必ず区切る
 2. 三拍・三拍で続く場合、区切ったほうが良い (目安)

ex) 通り越す → とおりこす ... 切らないほうが
(3拍)(2拍) 反訳しやすい

通り過ぎる → とおりすぎる ... 切りましょう!!
(3拍)(3拍)

行き当たりばったり → いきあたり/ばったり
(2拍)(3拍)(4拍)
... 切りましょう!!

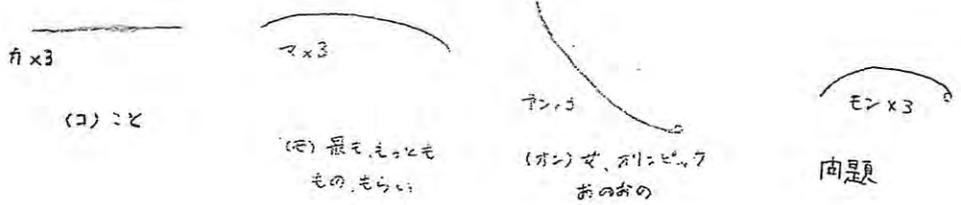
ex)

私は / 今日 / 頑張って / 速記を / 練習したため /
紙を / 使い / 切って / しまいました。

最大線 ... 類出する | 語句を短線の3倍の長さにして、
書きにくい

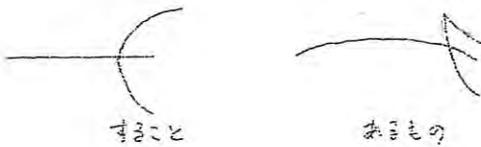
その語句を示す方法

※原則として分離して用いる

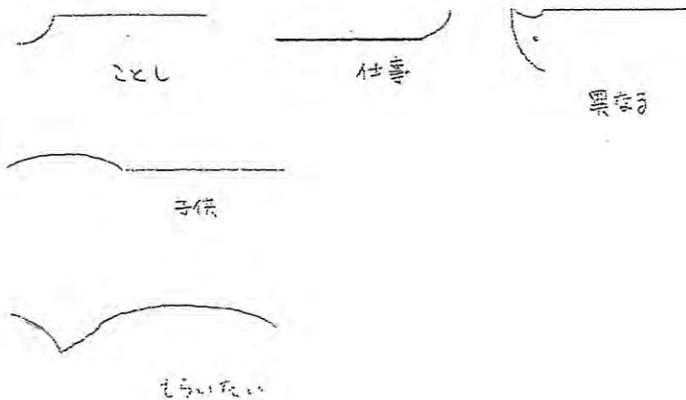


※加点文字の次に最大線がくるとき

→ 加点の位置から最大線を連続させる



※最大線 [応用編]



前 連続法(2) 「連続最大線」

オラ
～における

オン
～におきまして

オ
～において

ツン
～につきまして

ツ
～について

都市における

まちにおきまして

村において

海につきまして

空について

◎ 「に」は省略できます。

最大線の全て

左に加重線 現代
 右に加重点 現在
 (イ) 技術
 (ロ) 希望
 (ハ) けねども
 (ニ) %
 (シ) 次第
 (セ) 世界、説明
 (フ) 部分
 (エ) 了れり

(ニ) 日本
 (イ) 厚い
 (ロ) 努力、ドイツ
 (ハ) テレフォン
 (ニ) 違いない
 (イ) 手紙、徹底
 (ム) 昔、牙痛
 (セ) いっしょに
 (フ) 平和
 (ハ) 発表
 (ホ) おしゃる

(ワ) わけ、わり
 われ、扱々
 (ロ) ロット
 ロット
 (ハ) ルール
 (リ) 利用、利益
 (レ) レベル
 (ノ) 登記、組織
 (ニ) 絶対
 (ス) 少し、少ない、姿
 スポーツ、ストライク

(イ) 学校
 (ウ) 促す
 イケル
 (イ) 非常、頂
 いげども、辛員
 (ホ) ポイント
 +3
 (ノ) のみ
 +3 +7
 (ノ + 7) のみならず

応用

断れぬ
 言い訳
 言われた

いたたきまき
 かえり来た

(トウ) 道德

(トウ) 当然

(ホウ) 挑戦, 調査
朝鮮

(ヤウ) 相当

(ジヤウ) 状態
情報

(ショウ) 商業, 消費
消極, 省略

ハネ
申し

トキ
(ヒカ) 申し

(ホウ) 放送

(フウ) 夫婦

(ノウ) 農業

(ニョウ) ニュース
ニューヨーク

申し上げる

(ジョ) 女性, シネマ

(ショ) 所得

(ギョ) 漁業

(ヨウ) 運用, ヨーロッパ

(ロウ) 労働

アウ
(オウ) 方法

逆
公害, 郊外

(コウ) 外交, 工業

(キョウ) 教育

(ク) クラウド
(ハ) 変化

逆
文明

(ブン) 文化

(ウ) 運動

(イン) インド, インフレーション
(エン) 演説

(レン) 練習

オウ
(カ) 原因

(ニン) 勉強

(ハン) 反対

(ニン) 人間

(テン) 伝統, 電話

(テン) 天皇

(ダン) 団体

(セン) 選挙, 戦争

(サン) 産業, 積成

逆
根本

(コウ) 今後, 困難

特殊
小カギ
憲法

逆
検討
見当

(ケン) 研究

国名・地名の最大線

アメリカ
オランダ

ア×3を
「カ」で切る
アメリカ合衆国

フランス

★イギリス

★ブラジル

★パレスチナ

★日本

大西洋

太平洋

その真ん中に
下をかける
北朝鮮

北京

キョウフコ
朝鮮民主主義人民共和国

キョウフコ
中華人民共和国

★東京都

★ソウル

オーストラリア

インドネシア

インドシナ

★モンゴリ

フィリピン ★オーストラリア

香港

ロンドン

ワシントン

★ベレリン

★デンマーク

★インド
イングラント

★オランダ

★ドイツ

ニューヨーク

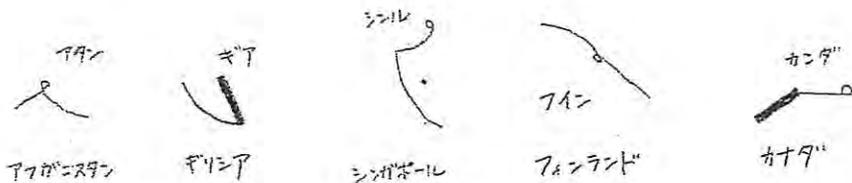
ロシア

ヨーロッパ

★朝鮮

★ = これより前の最大線と重複する。前のポイントと合わせて
(P → フィンランド、電話、伝統)
意味を全て覚えましょう。

国名・地名の省略 (最大線ではありません)



東西南北



★特殊省略

カギン
限り

カナン
かなり

カケン
環境

コニン
コンビニ

コアン
コンビニエンスストア

スカン
スローガン

ホト
本当

十字架
キリスト

※キリストの十字架を
伸ばす
キリスト教

キリスト + 'マ'
クリスマス

リズム → スズン

ナズン
ナショナリズム

リスン 特殊「カキ」+イ
リズム 意味

「コ」の上に
「カ」を浅くかける
国会

コ
ユネスコ

コツン
コミュニケーション

コクン
コンピュータ

イクン
インターネット

クツン
グローバル化

インフ
インフレ

テフ
テレビ

テフ
テレビ

クフ
クフル

イク
イキ

クフ
クフル

★特集★「数詞のすべてⅡ」

◆年代：原則として数字で表記
ただし、0は「〇(加点)」で表記

平成
シヨウ
昭和

◆時間
ジ
時
分
秒

メ
明治
大正

*午前～時 → 基本文字「コ」の上に
午後～時 → 基本文字「ゴ」の下に
それぞれ数字を書いて表記

午前6時に
6

◆度量衡
キ
キロ
メートル
セ
センチ
ミ
ミリ

キにメをかける
キロメートル
セにメをかける
センチメートル
ミにメをかける
ミリメートル

丨・グ
グラム
キログラム

デリ
リットル
デシリットル

*19～年、20～年のとき
→ 19、20を省略して「～年」と表記

ト
年度
日
月
年

*～年～月～日
→ 元号の内部に上から、年・月・日を書いて表記
*(元号)～月～日
→ スラッシュを用いて簡略化

平成3年12月15日
平成2年に

午前3時30分に
30 3

◆割合
ワ
割
分
厘

*割は、もちろん最大線でも可

◆文章
第～章 → 「シヨウ」の内部の下に数字を書いて表記
上～章」は通常表記
第～条第～項第～号 → 「シヨウ」の内部に上から条・項・号を書いて表記
上と同様、「第」がつかない場合は通常表記

3 第3章
9 1 第9条1項

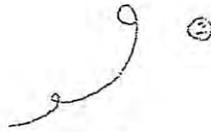
1年省略プリント No7

☆ 一音省略 (イ省略)

- ① イが第一音目 → 基本文字で表記
 - ② シ 二音目以降 → 正太円を用いて表記 (逆記法)
- ※ 円をつける位置は撥音「ン」と同方向



指定



精神



いろいろ



アンケート

※ 上列の長音のときも
同じように太円を用いて表記

(注) 撥音「ン」、長音に続く場合
→ それらを優先する

※ 抜音、促音は別



容易



好意

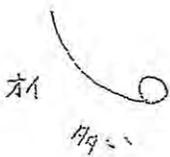


シャイ



決定

○ 「イ」に関する省略

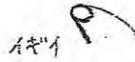


おい



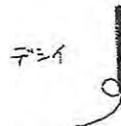
エイ

エネルギー



イイ

イデオロギー



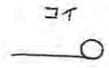
デシイ

デモクラシー



オイル

恐れ
おどろ



コイ

こと



プシイ

プライベート

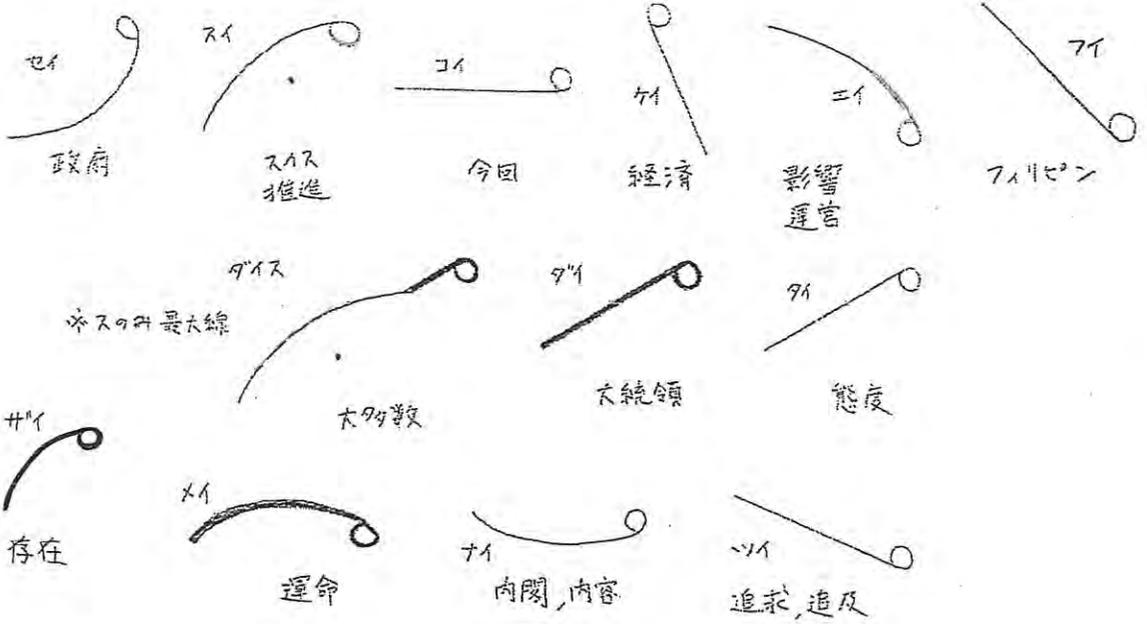


ノーゼイ

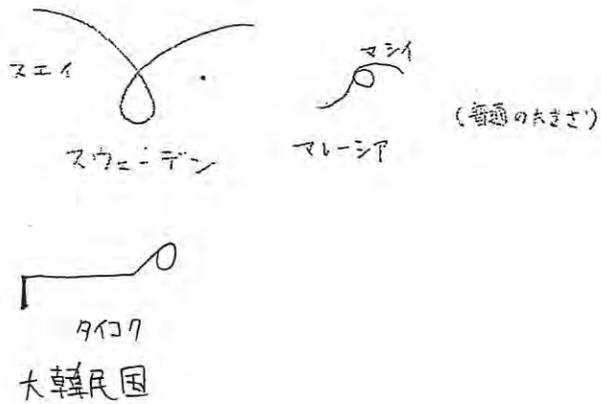
ノーマライゼーション

(すべて普通の大書き)

「イ」に関する最大線



★ 国名



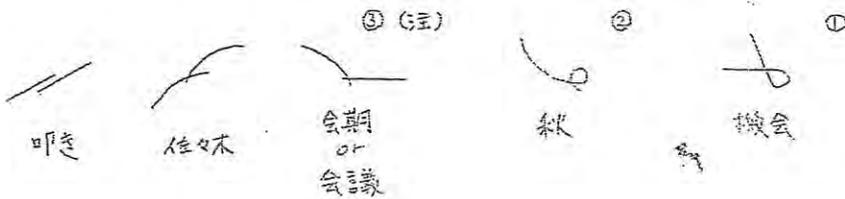
1年省略プリント No8

★一音省略(キ・ギ省略)

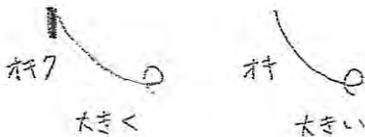
- ① キ・ギが第一音目 → 基本文字で表記
- ② “ 第二音目 → 有尾大円を用いて表記(逆記法)
※円をつける位置は撥音「ン」と同方向
- ③ “ 三音目以降 → 前の文字の語尾に深めに交差させて表記
ただし、同一角度の直線に連続するとき
→ 真側に深く平行

※交差、平行は促音「ッ」より深く!!

(注)一音省略が連続するとき → 後ろの省略を優先させる



○「キ・ギ」に関する省略



「～主義」… 前の文字の語尾を「キ」で切る (交差法)



「~的」... 前の文字の語尾を「フ」で切る (交差法)



文化的

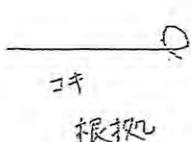


悲観的

「キ・ギ」に関する最大線



謙虚



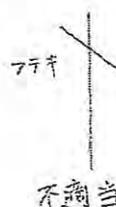
根拠



責任



適当

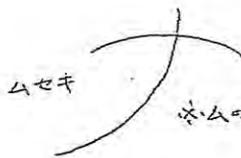


不適當

※ 中央部に
かける
字の最大線



貿易



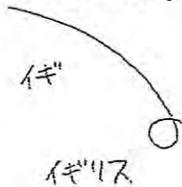
無責任

※ 上の点の位置から
逆鏡



歴史

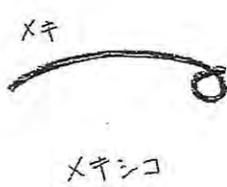
外国名 (最大線)



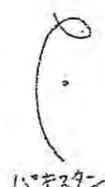
イギリス



沖縄



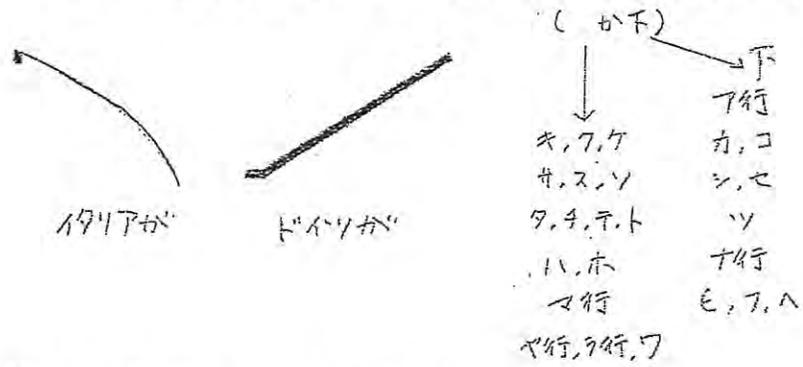
メキシコ



パキスタン

中 助詞 ... 速記では助詞を簡略化して表記

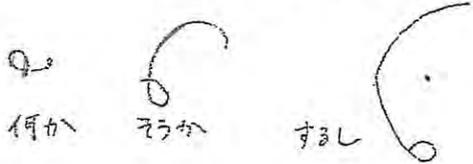
。が ... 基本文字「が」の最小線を反訳しやすい方向に表記



(「カ」「シ」は利用しなくても可)

。カ ... 語尾に有尾大円をつけて表記 ※つける方向

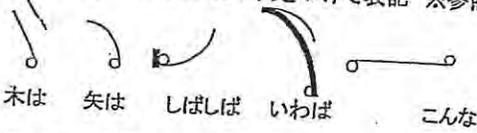
。シ ... 語尾に正大円をつけて表記 直線 → 負側
曲線 → 内側



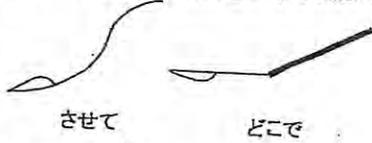
*円が楕円にならないよう注意!!

◆助詞：速記においては、助詞を簡略化して表記する

◎ハ、バ、ナ：尾部に正小円をつけて表記 ※参照



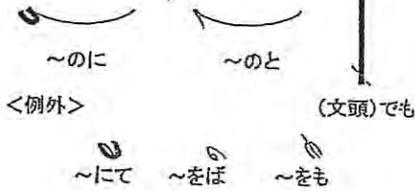
◎テ、デ：尾部に大楕円をつけて表記 ※参照



◎ノ：尾部に大カギをつけて表記 ※参照

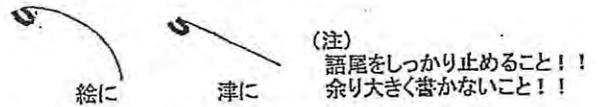


(注)助詞が連続するとき & 文頭に出てきたとき → 後ろを優先させ、前は基本文字で書く



◆助詞 その2

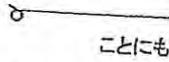
◎ニ：右下方に小楕円を濃く書いて表記



◎モ：尾部を最小線で切って表記



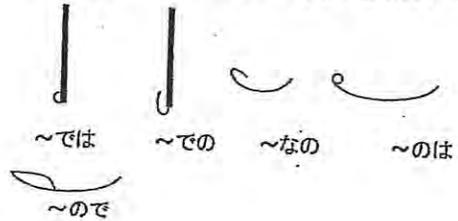
△ニモ：尾部に有尾小円をつけて表記 ※参照



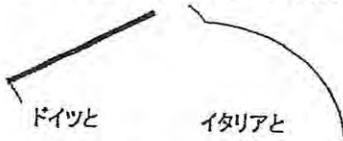
△ニハ：尾部に有尾楕円をつけて表記 ※参照



(注) 助詞が連続するとき → 後ろを優先させ、前は基本文字で書く



◎ト、ド：基本文字の「キ」「フ」の方向にはねて表記 ※はねる方向

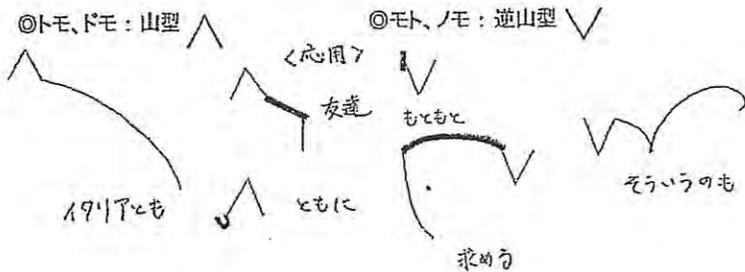


*「キ」の方向
ア、ウ、オ ナ行
キ、ク、ケ ヒ、ヘ
シ、セ ヤ行
タ、チ、テ、ト ワ

直線 → 正側
曲線 → 外側



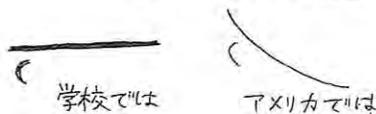
*「フ」の方向
イ、エ ハ、フ、ホ
カ、コ マ行
サ、ス、ソ ラ行
ツ



○テモ、デモ：前の文字の負側(光が当たらない側)に基本文字「モ」の最小線を書いて表記



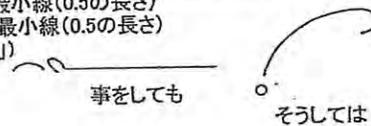
○テハ、デハ：前の文字の負側に基本文字「ハ」の最小線を書いて表記



◆加点法「して、じて」：基本文字の尾部の延長線上に加点することで表記



*後ろに助詞が続く場合 → 加点の位置から最小線(or助詞)を書いて表記
 ~しての：基本文字「ノ」の最小線(0.5の長さ)
 ~しても：基本文字「モ」の最小線(0.5の長さ)
 ~しては：正小円(助詞「ハ」)



◆こそあど語

	こ	そ	あ	ど
○の	∪	∪	∩	∩
○のような	∪	∪	∩	∩
○のように	∪	∪	∩	∩
○のようにして	∪	∪	∩	∩

☆ 三段省略(1) ... 文字を書く位置(上段・中段・下段)の違いによって活用させるもの

○ 三段活用

	あり	ござい	いたし	なり	思ひ	い	まい	より
	加点	がの 最下線	チ	ナ	ハ	ヒ	マ	ヤ
上段 ~ます	・	—		ㄣ	()	—	ㄣ
中段 ~して	・	—		ㄣ	()	—	ㄣ
下段 ~ました	・	—		ㄣ	()	—	ㄣ

*1 ので | おります | の「ので」は書かない。
 | ございます |

○ 助詞の連続

・ 「あります」の場合

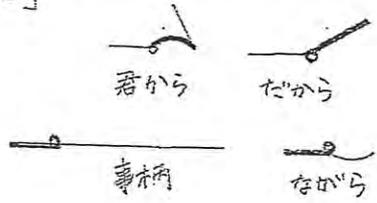
	打消 左下にはねる /	「か」 助詞「か」を連続 ㄣ	「し」 助詞「し」を連続 ○	「から」 波線を連続 ㄣ
上段	ありますが	ありますか	ありますし	ありますから
中段	ありまして			
下段	ありましたが	ありましたか	ありましたし	ありましたから

※ この他は分離して表記すること

・ 他の三段省略の場合

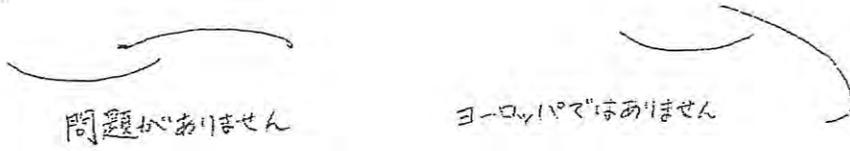
- 「～が」... 助詞「か」を連続
- 「～か」... 助詞「か」を連続
- 「～し」... 助詞「し」を連続
- 「～から」... 連続「カン」で表記
- 「～なり」... 連続「ナン」で表記

連続法
→ 三段省略以外でも利用可



○ 三段活用 of 打消

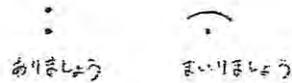
- ・ 打消の「ありません」… 基本文字「ㇿ」で前の文字をすくうことで表記
 ※ ではありませんの「では」は書かない。



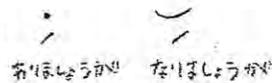
○ 他の三段省略の場合… 頭部に正小母をつけて表記

上段	～ません	ご ^ㇿ さいません	
中段	～ません ^ㇿ して	な ^ㇿ りません ^ㇿ して	
下段	～ません ^ㇿ した	い ^ㇿ ません ^ㇿ した	

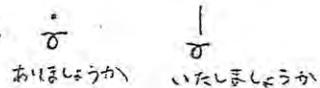
○ ～ましょう… 下に加点して表記する (上段のみ)



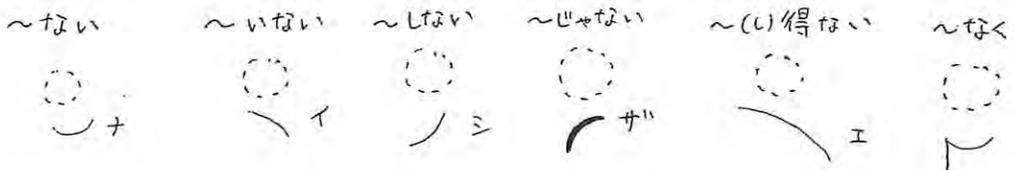
～ましょう^ㇿが… 下に加点を下方にはねる



～ましょう^ㇿか… 下に加点から助詞「か」を連続



○ ナイ省略



※ ～ない、～なくは、「では」を省略できる。

★ 三段省略 (上段・下段)

書く位置によって語句を表す方法

○ 上段

シ) ヌウ) ヒ) ク | イ) 精肉イ)

私 あなた 人 国 今 いそいそ

ゴン

御存じ

※ 真ん中を「〜」で切る

「リ」	〜のとおりに
「ヨナ」	〜のようき
「ヨニ」	〜のように
「ク」	〜のごとく

[応用]

ヒツ) 一ツ

ヒリ) フリ

一人 二人

(ex)

御存じのとおりに

御存じのようき

御存じのごとく

○ 下段

シ) シニ) シノ) シテ) コ) ソ) ン)

しかし したがりに したがって したがって これ それ どれ

[連続法]

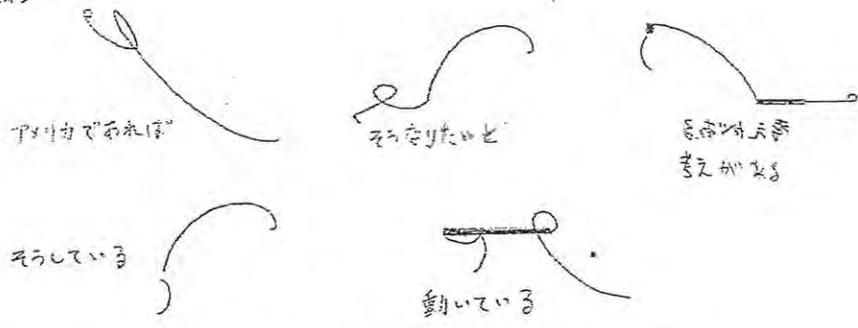
ア) オ) ナ) ハ (ヒ) ホ (

あり あり 有り ある いる 有る

あれ

※連続可のものについて ⇒ 下段に書かずに連続するとして"意味を持つ"

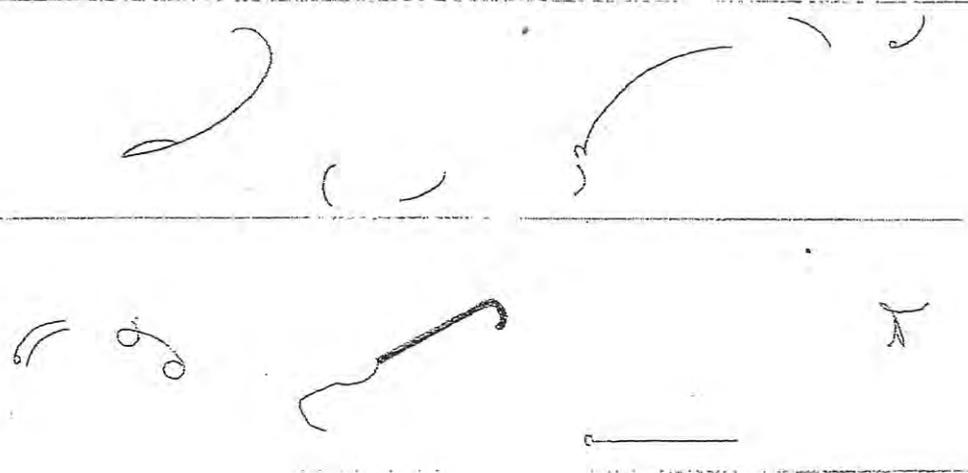
(ex)



※平行法 ... 同じ文字を平行に重ねて表記する省略



[例文]



私は今速記をしているのであります。しかし、ある省略で悩んでいるのであります。これをどうしたらいいか さまざまな ...

省略補助ポイント

<上段>

イナ	イナ	イナ	アア	アア
今さら	いまだ	今なお	あくまで	あくまで

✓
もともと

<中段>

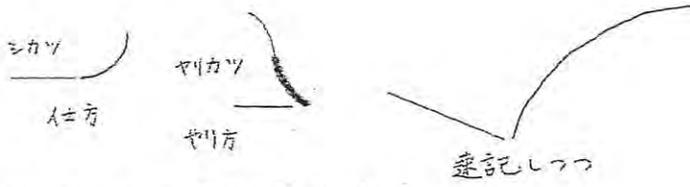
ホナイ	ホナ	マコ	
(音が存在しない)	(音が存在しない)	まことに	

ヤ	ヤ	ヤ	特殊なヤ
やむを得ません	やむを得ず	やむを得ない	やむを得ません

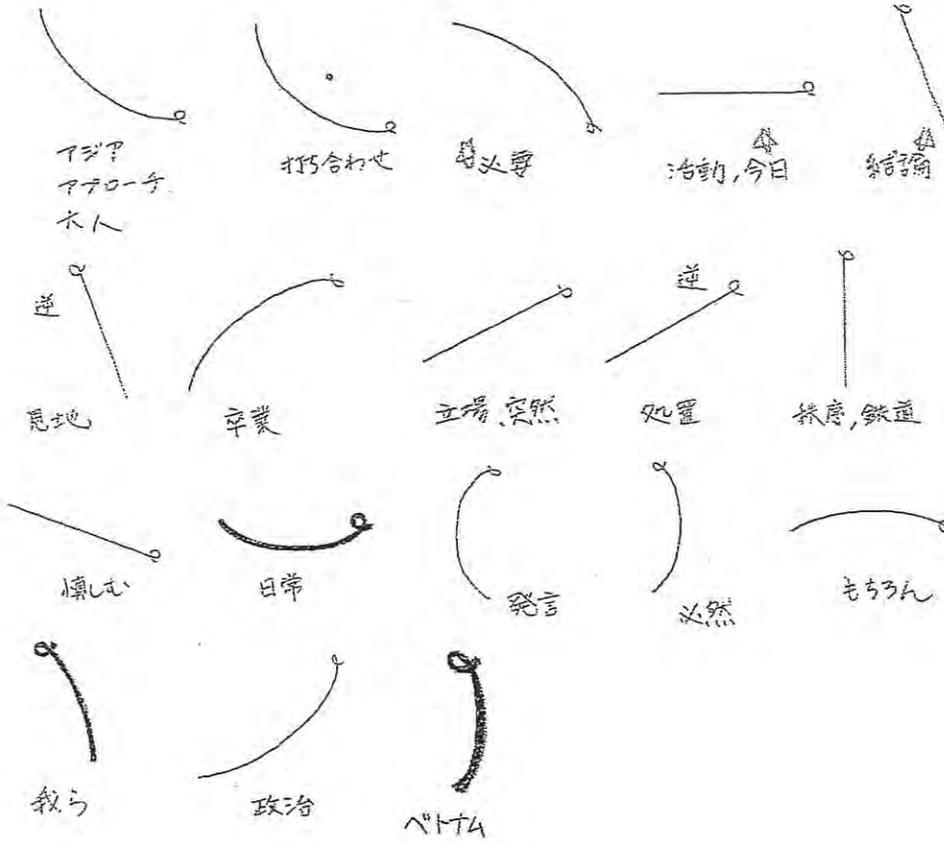
<下段>

ケ	サマ	
けれど	サライマン	自動車

- 「〜方」… 分離「カ」で表記(分離法)
- 「〜しつ」… 分離「ツ」で表記(分離法)

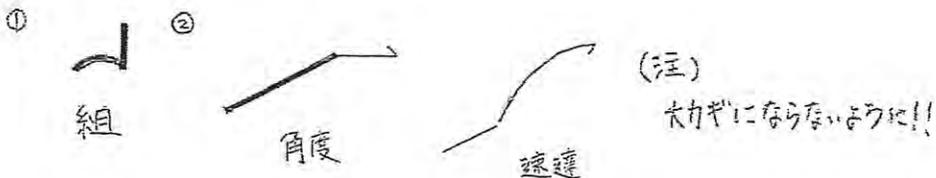


○「キ・ツ・ジ・ズ」に関する最大線



★一音省略(ク、グ省略)

- ① ク、グが第一音目 → 基本文字で表記
- ② シ 第二音目 → 小カギを用いて表記(逆記法)
※カギをつける方向は長音「ー」と同方向
- ③ フ 三音目以降 → 前の文字の語尾に浅く接触させて表記
※同一角度の直線に「ク、グ」が連続するとき
→ 前の文字の気側に小カギをつけて表記



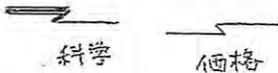
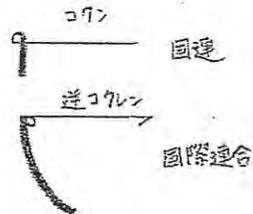
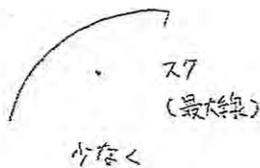
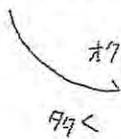
○ 拗音 + フ の場合

※ 濁音も下記に準ずる

○_ヤフ → ○_aフ ○_ニフ → ○_iフ ○_ヨフ → ○_eフ

〈頻出語〉 キヤフ → カフ ヒヤフ → ヒフ シニフ → シフ キヨフ → ケフ
 シヤフ → シフ ミヤフ → ミフ シヨフ → セフ ショフ → テフ
 ファフ → フフ リヤフ → リフ

○ 「ク、グ」に関する省略



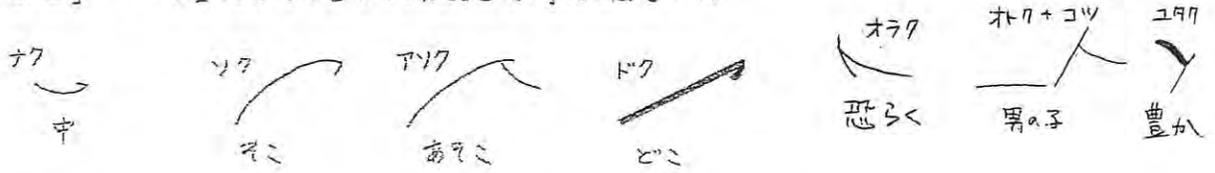
※ 逆だから小カギを
逆につける(逆カギ)

※ 反対にいくため
(覚え方) 科学は進歩したほうがいい → 上
 価格は下がったほうがいい → 下

- ・「〜カ」… 前の文字に「ヾ」を浅く接触させて表記 (接触法)
- ・「〜ソク, 〜ソク」… 前の文字の中部に「ク」を接触させて表記 (接触法)
- ・「〜らしく」… 前の文字に「ラ」を浅く接触させて表記 (接触法)
- cf 「〜らしい」… 前の文字の中部に「ラ」をかける (交差法)

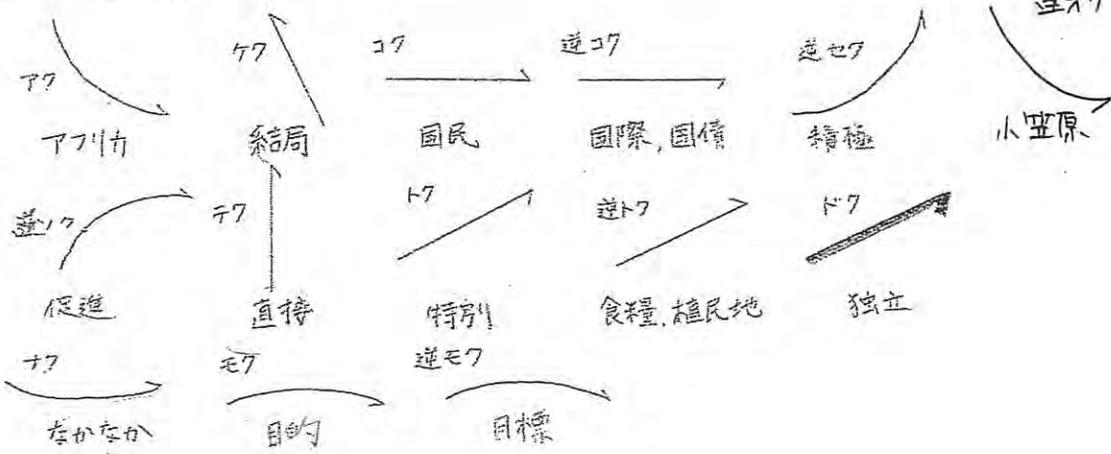


- ・「中」… 「ナ」に小カギをつけて表記 (同行縮字法)
- ・「そこ」… 「ソ」に小カギをつけて表記 (同行縮字法)
- ・「あそこ」… 「ア」に「ソ」を浅く接触させて表記 (同行縮字法)
- ・「どこ」… 「ド」に小カギをつけて表記 (同行縮字法)

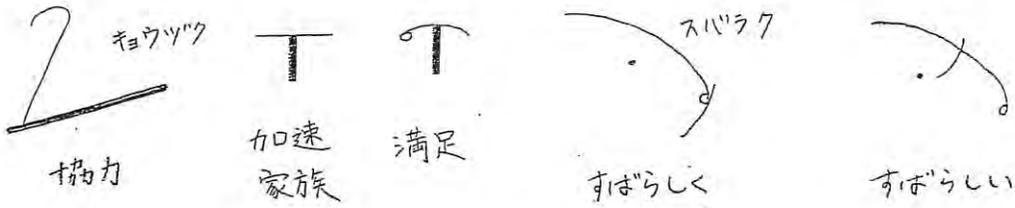


- ・「下段」… 「コ」に「ソ」を浅く接触させて表記 (同行縮字法)
- ・「それら」… 「レ」に「ソ」を浅く接触させて表記 (同行縮字法)
- ・「あれら」… 「レ」に「ア」を浅く接触させて表記 (同行縮字法)
- ・「どれら」… 「ド」に「レ」を浅く接触させて表記 (同行縮字法)

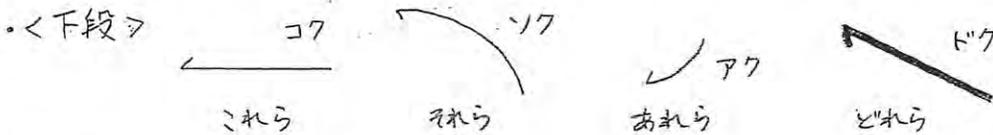
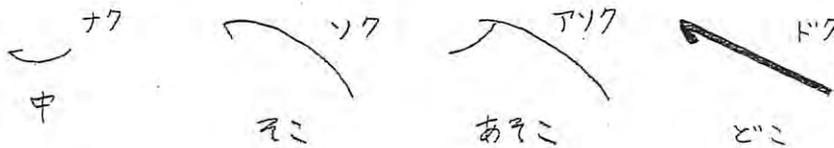
「ク・ク」に関する最大線



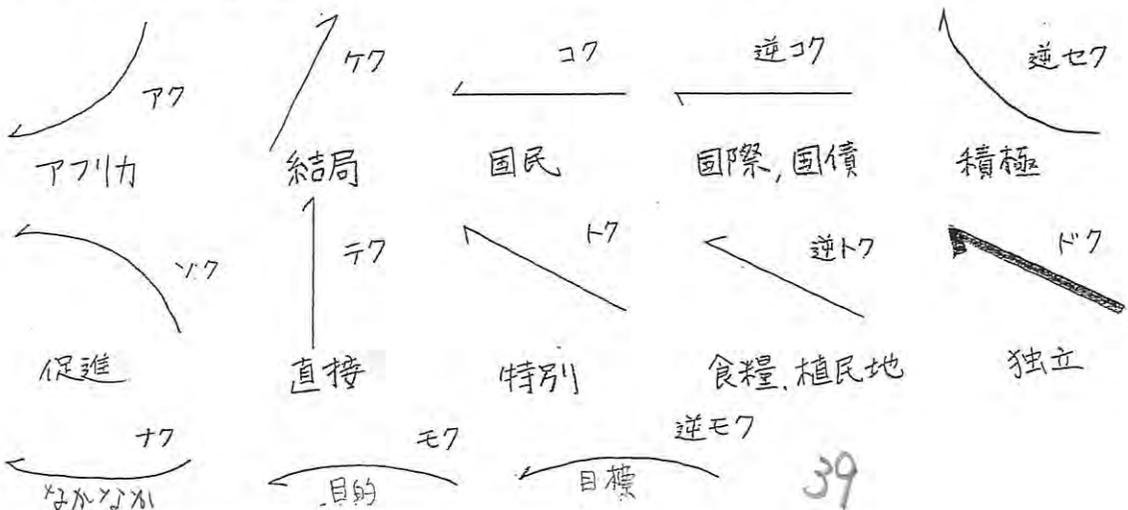
- ・「〜^りカ」… 前の文字に「ツ」を浅く接触させて表記 (接触法)
- ・「〜ソク, 〜ゾク」… 前の文字の中部に「ク」を接触させて表記 (接触法)
- ・「〜らしく」… 前の文字に「ラ」を浅く接触させて表記 (接触法)
- cf 「〜らしい」… 前の文字の中部に「ラ」をかける (交差法)



- ・「中」… 「ナ」に小カギをつけて表記 (同行縮字法)
- ・「そこ」… 「ソ」に小カギをつけて表記 (同行縮字法)
- ・「あそこ」… 「ア」に「ソ」を浅く接触させて表記 (同行縮字法)
- ・「どこ」… 「ド」に小カギをつけて表記 (同行縮字法)



○「ク・グ」に関する最大線



高等省略プリント No.1
 ☆連続法(3)

～です	ブ	～(し)ます	マ	～した	ダ
↓		↓			
～でした	ツ	～(し)ません		～(し)ながら	
～でして	ツテ				又
～したい	タイ	～(す)べし	ベ	～より	ヨ
～だけ	ケ	↓		～たら	タン
～にもかかわらず		～(す)べき	キ	～しむ	ム
		～(す)べく	ク	～める	メ
	ツン	～側		～というふうな	左上方
		～にわたる		～というように	大橋円
～でしよう		～なる		～というふうな	右下方
～まで	ギ	～など		～というふうに	大橋円
		いた			
～する	ジ	～する	カ・シテ	対して	タ・シテ
～すら			カ・ニ	対する	タ・ニ
			奥して		
			奥する		
～れば" ... 助詞"は"を逆につける				おれば" なければ" すれば"	(連続タテ) or 知れば"
～ざるを得ぬ	サエ				
↓					
～ざるを得ない	サエイ	～ざるを得ません			サエン

～かもしれぬ カシ

↓
～かもしれぬい

カシイ

～かしれません カシン

	～(せ)ねば	～(し)なければ	～(し)なくては	～(し)なくちゃ
	ネバ	ニバ	ニクバ	逆ニクバ
ならぬ (～ナ)				
ならない (～ナイ)				
知りません (～ナン)				
知らなかった (夕を深く交差)				
いけない (～ケイ)				
わからない (～ワイ)				

～られ (ラ cf) ～られる ... 前の文字の尾部に「ラ」をかける

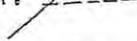
～され サ ～される ... 〃 「サ」 〃

～させ セ ～させる ... 〃 「セ」 〃

(交差法)

交差法

尾部に夕をかける



～なかった

中部に夕をかける

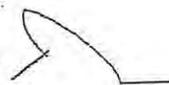


～ラシ

中部に夕をかける



～とあり



帰らなかった



このうち



とあり

尾部に夕をかける



結果

高等省略プリント No2

★ 三段省略 (2)

◎ 上段

アテ おえて アハ あまは アカ あたか アツナ 新たな アツニ 新たに オシ 同じ オ いささか

ズ 必ず ステ 必ずしも ソ すべて チ | すなわち
カ ナ なか ナカ なか ナク なるべく

ナト なるほど マ また ム 目 ^{独立} 上方大指円 ホト いわゆる ホト ほとんど

＜漢字の音読みからつられてくるもの＞

キク 極めて (既に) キニ 既に キシ おずか クン 諸君 ショニ 空に シン 心 ジン 甚だ チニ 直ちに

トニ いたずらに ムシロ むしろ [×] 明らか ユ いよいよ ヨ 予算 レ たとえ レイ 例え

カニ (ガイ) 概ね

○ 動詞

カ 考える キ できる ヲ 覚える ヲ わかる

＜～う＞
オ 思う コ 行う ジ 従う

＜～く＞
ツ 続く ハ 倦く

ト 伴う

※ 上段動詞の活用方法

(例)

終止形 トメ 考える

連用形・名詞 ハネ 考え

「～て」 (連続) 助詞「テ」 考えた

「～ない」 (頭部) 大円 考えない

「～ません」 (頭部) 特殊小円 考えません

過去形 (頭部) 大カキ 考えた

「～なかった」 尾部に「ク」をつける 考えなかった

「～ば」 (連続) 助詞「バ」 考えれば

★ 思うのであります

○ 形容詞 … 下もしくは右側にハの加點などによって示す

ア. 新しい
イ. 美しい
イチ. 暑い
ウ. うれしい
ウツ. 美しい

カ. 悲しい
又. 下がる
ム. 難しい
おもしろい

(例)
新しく
新しくた
新しくれば
新しいか
新しいと
新しいほど

※ 上段形容詞の活用方法

「～い」 加點

「～しく」 ク

「～した」 カ

「～ければ」 助詞「ハ」

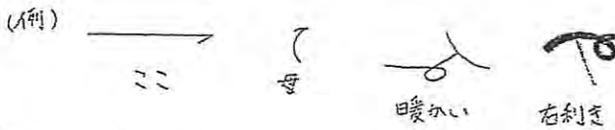
「～いか」 助詞「カ」

「～いと」 } 右上に
「～いほど」 } ハネル

✦ 一音繰り返し記号

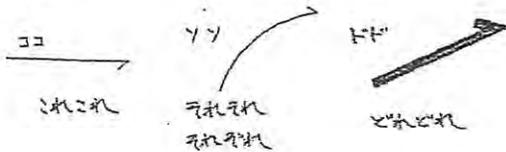
① 1音目, 2音目が同じ場合 → 逆小カキ

② それ以外が連続する場合 → 前の文字の中部で接触

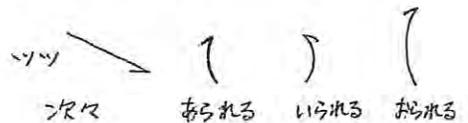
(例) 

○ 特殊

<下段>



<中段>

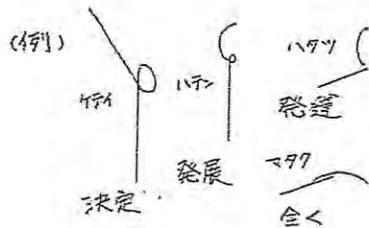


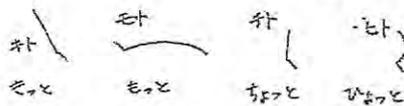
✦ 促音簡略法

① ○っ○ → ○○ と表記
イ, ヌ, ヲ, フ, チ, キのどれか

② ○っ と → ○ト と表記

③ ○っ と → ○ト と表記
短線にする

(例) 



高等省略プリント No.3

★三段省略(3)

◎下段

ク | * ハウ * ヒウ * ホウ * ナウ * ナイ

く ください } 連続可 ぐらい あった いった 言った おった なた ない ない

カ カ カ * コ * * * * *

彼 彼ら 彼女 とき 時 こ さ た た た ばかり ところ

(応用)

クマ カ * * *

車 体 正しい 正しく

* 前の文字の下方に書いてよい

○動詞

< 頭部に何か加ったもの >

ク ジ ナ ヴ ハ フ

及ぶ 尋ねる 答える 続ける 始める 忘れる

及ぼす 言ねる 応える

< ~める >

ス ミ ラ

進める 認める 改める

※ 下段動詞の活用方法

上段動詞の活用方法と同じ
(基本文字の所りもの)

頭部に何か加ったものは、
連用形、名詞、「～て」、「～ながら」
「～ば」以外、連続法によって活用する

② 中段

ア 間
 アリ 余り
 ウ 上
 カク 石炭
 通る 関係
 シ 同時
 シツ 質問
 ダ 大体

ツ 次
 ツリ つり
 ツにリをかける
 ツもり 並心
 ナ ハ 話
 ナ ハ 場合
 ナ ハ ほか

モヤ 毛髪
 ヤリ やり
 コ 中元
 エン 円
 トモモ ともも
 速やか

(応用) オハタイ
 お話ししたい

動詞

知
 過ぎ

※ 中段動詞の活用方法

上段動詞の活用方法と同じ

求心法

(イ〜ケ) 一生懸命
 (フ〜ク) プログラム
 (フ〜セ) フォクス
 (マ〜ラ) ままら
 (ミ〜キ) 民主主義
 (ミ〜セ) 民主政治
 (ヤ〜オ) 業
 (ヤ〜セ) ニニセ
 (フ〜ト) フォト
 フォト
 フォト

高等省略プリント No4

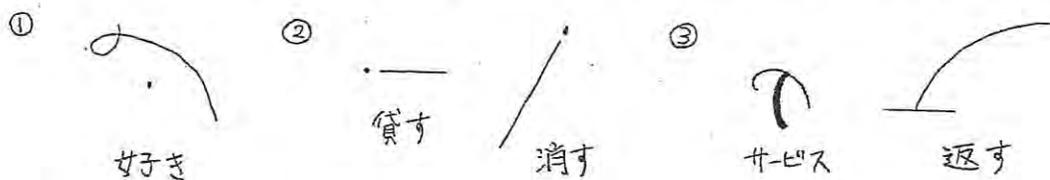
☆一音省略 (ル省略)

- ① ルが第一音目 → 基本文字で表記
- ② ン 第二音目 → 大楕円を用いて表記 (逆記法)
- ③ ン 三音目以降 → 前の文字の語尾に深めに接触させて表記

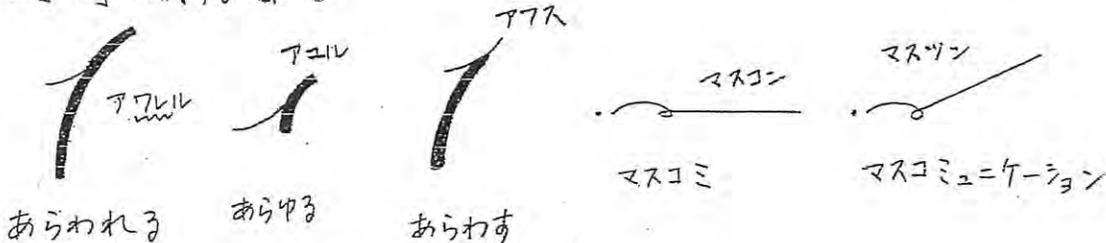


☆一音省略 (ス省略)

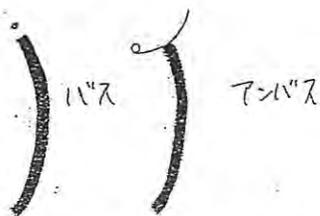
- ① スが第一音目 → 基本文字で表記
- ② ン 第二音目 → 頭部に加点して表記 (逆記法)
- ③ ン 三音目以降 → 前の文字の中部に接触させて表記



○「ル」「ス」に関する省略



○「ス」に関する省略



◎ ル省略

- ① ルが第一音目 → 基本文字で表記
- ② 〃 第二音目 → 大楕円を用いて表記(逆記法)
- ③ 〃 第三音目以降 → 前の文字の語尾に深めに接触させて表記

→ 例

①
ルミナリエ

②
まるで

③
取る

③
残る
コマ-シヤル

✳ 省略

アワレル
あられる

アユル
あゆる

✳ 最大線

エルサレム

ネパール

ノルウェー

ニルギ

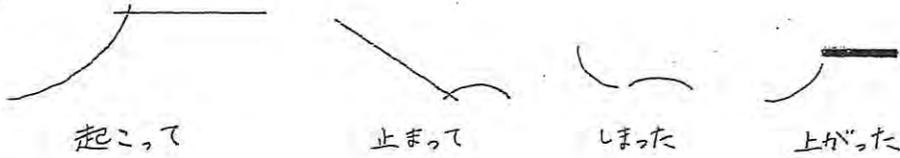
ポルトガル

トルコ

★「ッテ」「ッタ」

- ①②って → ①の尾部に②を浅くかけて表記 (交差法)
- ①②った → ①の延長線上に分離させて②を表記 (分離法)

(例)

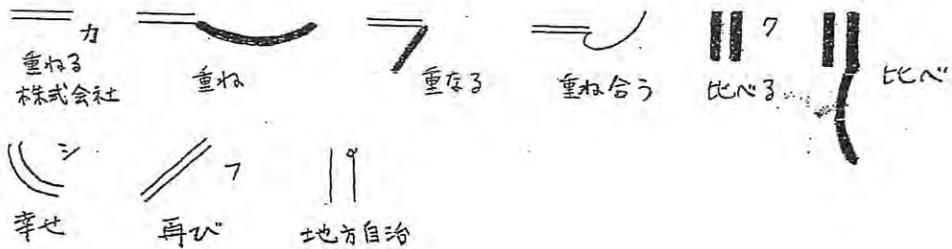


★分離法

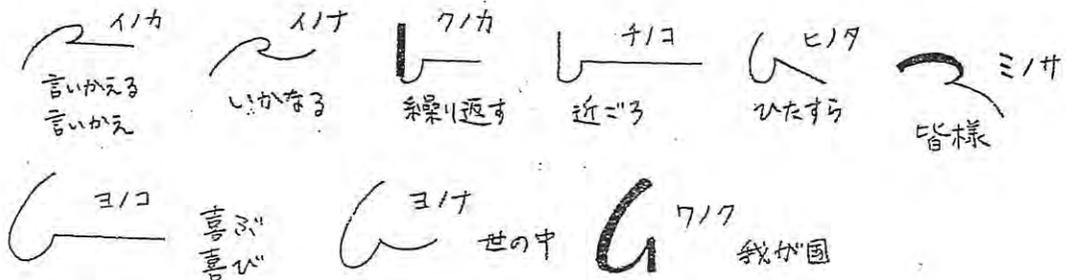
～(の)であらう... 前の文字の延長線上に「ハ」を表記
 ～(の)だらう... 「ダ」を表記
 ～なろう... 「ナ」
 ～(か)どうか... 前の文字の下部に平行させて「カ」を表記



★平行法

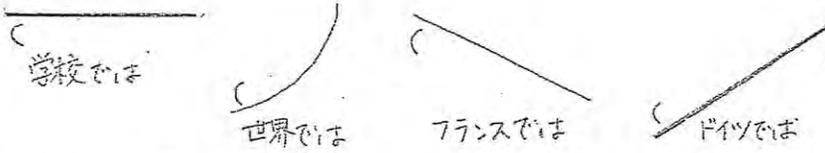


★中間小カキ

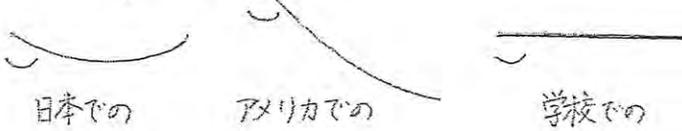


<1> では、での、でも、とて(で) ... 語尾分離「まじこ」の位置

① では — 「ハ」の最小線



② での — 「ノ」の最小線



③ でも — 「モ」の最小線



④ とて、とで — 「テ」の最小線

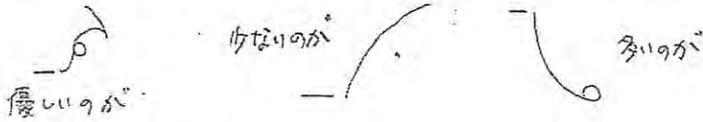


<2> のか、のが、etc. ... 語尾分離「して」の位置

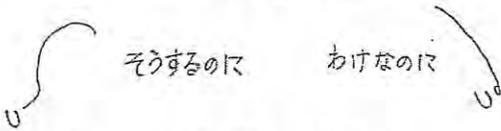
① のか — 「カ」の最小線



② のか — 「か」の最小線



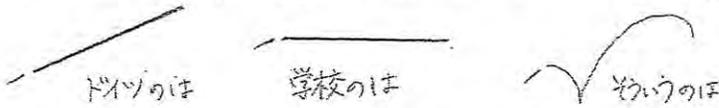
③ のに — 助詞の「に」



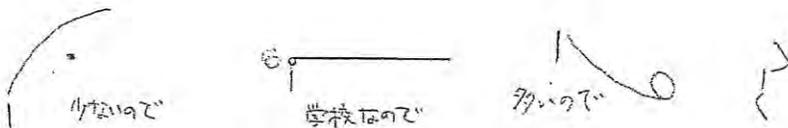
④ のを — 助詞の「を」



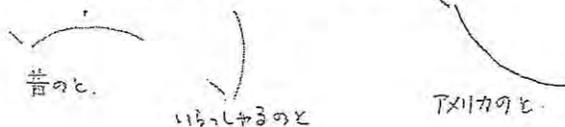
⑤ のは — 助詞の「は」を左下にはねる



⑥ ので — 「で」の最小線を下方にはねる



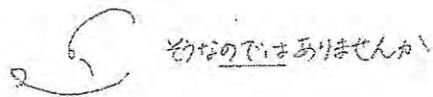
⑦ のと — 助詞「と」を左上方にはねる



⑧ のだ — 「だ」の最小線



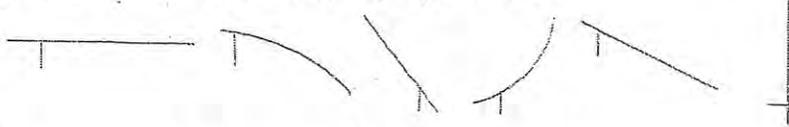
⑨ のでは — 「や」の最小線



2年 省略プリント No.16 二音助詞 Part II

<3> とか、とは、etc. ... 尾部接触

① とか — 「カ」の最小線 (右や下方)



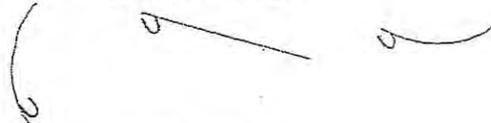
② とは — 「ハ」の最小線を右Fにはねる



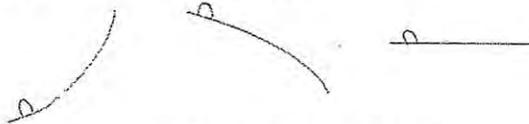
③ との — 「キ」の最小線を左Fにはねる



④ とに — 助詞の「ニ」



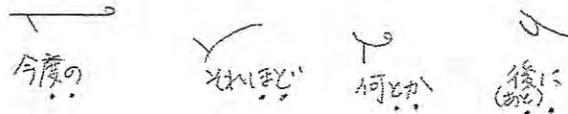
⑤ とを — 助詞の「ヲ」



⑥ ほと — 助詞の「ト」をすべて右上にはねる



ex.)



<4> その他

★ には → 有尾橋円



助詞の「テ」を
つぎぬける

★ にも → 有尾小円



助詞「ハ」を
つぎぬける

とし → 肉有尾大円



とけに、とち、とち → 山形



ちと、のも → 逆山形

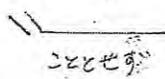


～とともに → 語尾分離「トモ」

希望とともに

校とともに

～とせす → 助詞「ト」に平行して「フ」



とも → 助詞の「フ」を「モ」で切る (今語通り)



のよ → 「ヨ」の最小形

ex.

いいのよ

をば → 助詞「ヲ」に助詞「バ」をつける



にて → 助詞「ニ」に助詞「テ」をつける



特集 「アルファベットのすべて」

A	ア	J	ゼ	S	サ
B	ビ	K	カ	T	タ
C	シ	L	ロ	U	ユ
D	ディ	M	マ	V	ヴ
E	エ	N	ナ	W	ワ
F	フ	O	オ	X	ソ
G	ジ	P	ピ	Y	ヤ
H	ハ	Q	キ	Z	ズ
I	イ	R	ラ	& and	ト

※覚え方

a i u e o k s t n h m y r w
 アイユエオ カサタナハマヤラワ

ローマ字読みどおり
 (uは例外)

後ろにひきつけたローマ字読みどおり

(注) 「ナトー」「ワスタ」などはカタカナのため、そのまま書く。

読まれたとおりに書く!!

(例)

			
PTA	GNP	NATO (エヌイーシーオー)	ナトー

頻出言語 (主に時事)

EU	エウ	IOC	イオシ
GDP	ジデピ	HIV	ハイブ
GNP	ジナピ	DVD	デブデ
FTA	フタフ	NTT	ナタタ
IMF	イマフ	USB	ユサビ
M&A	マトフ		
ODA	オダフ		
PKO	ピカオ		
TOB	トビ		
WHO	フハオ		
WTO	フタオ		
CEO	シエオ		
MBA	マバ マビフ		

(おわりに)

中根式速記法は、大正3年(1914)5月10日、創案が大坂毎日新聞紙上に紹介された。創案者は、第三高等学校から京都帝国大学へ進んでいた中根正親であった。

当時の日本語の速記法は、明治15年(1882)10月28日、アメリカのグラハム式のアルファベットを参考にして創案された田鎖綱紀の田鎖式をルーツにした方式が主流であった。しかし、グラハム式の源流である英国のピットマン式に立ち戻って創案されたガントレット式(エドワード・ガントレット)が折衷式として新風を吹き込み、またピットマン式をもとに武田千代三郎が初めての単画派として創案した武田式が最新の理論を田鎖系統の複画派に課題提起していた。

そのような中で、正親は再度ピットマンを原点に、我が国で初めて実用化される単画派を世に問うたものである。正親は、日本語を文字で表記する際、漢字で書く言葉と仮名で書く言葉に分けられると断じて、漢字で書く言葉の2音で書くものは字尾に必ずインツクキの音を伴うことを発見した。これに長音、拗音と撥音を加えると、日本語では字音語の尾音に一定の法則性があることを見出したものである。正親はこのインツクキをサイン符号で逆記することとし、平仮名で書く言葉は音読みで書くことなどを基本原則として、それまでにない速記理論体系を構築した。中根式速記法はその後事情があり、弟の中根正世(正雄)が全国の中学校レベルで普及を図り、最盛期には5,000名の高校生が学習した。高校生の中には2年半の練習で分速450文字を書くものもあらわれ、学習性のよさを証明した。

そのような中根式速記はこれまで右利き用の教本だけだったが、関西学院大学速記部では左利き用の教本を作成していた。今回、それをういた谷口香奈江さんの厚意により、PDFとして世の左利きの皆さんに提供し、第二の文字として使用していただきたいと考えている。

(兼子次生)